



# きずな

広戸小学校 学校だより

NO.2

令和8年5月1日発行

(文責 大西 哲也)

## 「<sup>まな</sup>学ぶ」ことは 「<sup>まね</sup>真似る」こと ～まなぶ+まねる=まねぶ～

突然ですが、みなさんは「まねぶ」という言葉を聞いたことがありますか？ 私は、今から9年前の2017年に、県外先進校視察として訪れた石川県金沢市にある泉野小学校で初めて「まねぶ」という言葉を知りました。一週間の短い研修でしたが、その後の私自身の指導や学級(学校)経営につながる多くの好事例を学ばせてもらった貴重な機会でした。当時の学力調査結果全国1位の石川県の中でも、最上位層にあった学校ですが、ふつうの公立小学校で子どもたちは元気で活動的でした。

たくさんの気づきの中で、最も印象に残っている言葉が「まねぶ」。授業の中で友達と意見交流する場面を「まねぶタイム」と呼んだり、すてきな自学ノート紹介コーナーには「まねぶノート」の文字があったり…。学校の至る所に使われていた「まねぶ」。その時の私は、「学ぶ」と「まねをする」を合わせた学校独自の造語だと思っていました。

何年後かに、ある本を読んでいると『学ぶの語源は「まねぶ」(諸説あり)』という文章を目にしました。古くから、学びの始まりはまねをすることだったようです。泉野小学校がこの語源を知っていたのか、全くの造語だったのかは…？ ですが、どちらにしてもとってもステキで深い言葉だなあと感じました。たしかに「学ぶ」のは、0からオリジナルを生み出すことばかりではなく、その多くが好事例(お手本)を真似ることがスタートです。

私の人生をふり返っても、子ども時代はもちろん、大人になって今の仕事をする中でも、常に「あの人のようになりたい」「こんな授業をしてみたい」というモデルをまねしてやってきました。自分に合っていると思う方法や実践を見つけ、自分なりにやってみて、試行錯誤しながら自分のものにしてきました。「まねぶ」ことの積み重ねで今の自分があります。

まねをすることは「パクる」など、良くない意味で使われがちですが、そんなことはありません。本当に真似ようと思えば、本物をよく見て、聞いて、感じなければうまくいきません。モノマネが良い例です。プロのモノマネ芸人さんは、本当に見事に特徴を捉え、時には本物(本人)以上の魅力を引き出しています。そこには必ず真似る対象へのリスペクトがあります。尊敬・敬意をもって全力で真似る。かっこよくいえば「インスパイア」する、「オマージュ」と言い換えることができます。

昔に比べて多くの情報が簡単に手に入り、「まねび」やずくなっている今の時代。子どもたちには、ただの模倣にとどまらず、いいものはためらわずに徹底的にまねて、自分の財産=学び にしてほしいと思います。

今回、学校だより「きずな」の内容を少しリニューアルしてみました。これまで以上に これからの学校のこと、子どもの姿、そして校長の思いを中心に発信していきたいと思えます。また、校長以外の学校職員の発信、保護者・地域の方々の声も、より多く紹介し、さらにみなさんとの「きずな」を深めていきたいと考えておりますので、ご理解・ご協力ください。

子どもたちのようすについては、学校ホームページをご覧ください。カラー写真を多く掲載しています。行事予定・下校時刻も随時更新していますのでご確認ください。裏面のQRコードを読み取り、ぜひお気に入り登録を！

進級・入学から1ヶ月

どの学年も 元気いっぱい

輝いています！

6年生



5年生



4年生



3年生



1, 2年生



広戸小

ホームページ

HP

